

平昌冬季五輪の選手と競技に関する調査

[全国 1 万人対象／平昌五輪直前調査／調査期間 2018 年 1 月 31 日～2 月 2 日]

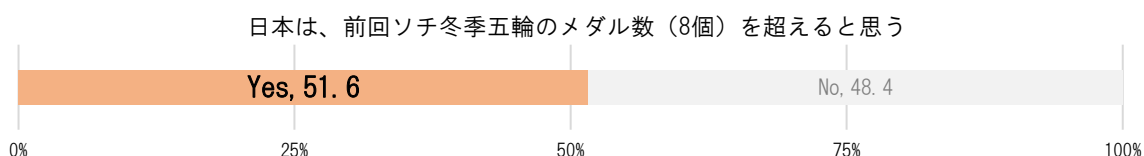
▼各ランキングトップ 3 (※敬称略)

知名度			金メダル予想		
順位	選手名	%	順位	選手名	%
1 位	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	87.4%	1 位	小平 奈緒 (スピードスケート)	51.4%
2 位	葛西 紀明 (スキージャンプ)	84. 6%	2 位	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	49. 6%
3 位	高梨 沙羅 (スキージャンプ)	79. 9%	3 位	渡部 暁斗 (ノルディック複合)	33. 7%

注目度 (注目する理由)			
順位	選手名	%	主な理由
1 位	羽生 結弦 (フィギュアスケート)	73.7%	「66 年振りの 2 連覇、金メダルを絶対取って欲しい」 (宮城県 60 代女性) 「世界最高得点の記録更新を見たいから」 (静岡県 30 代男性) 「けがを克服して金メダルをとって欲しい」 (愛媛県 60 代女性)
2 位	高梨 沙羅 (スキージャンプ)	69. 2%	「日本女子ジャンプ界をリードする一人。活躍に期待」 (長野県 20 代女性) 「金メダルを取った笑顔が見たい」 (愛媛県 40 代男性)
3 位	小平 奈緒 (スピードスケート)	61. 8%	「日本女子スピードスケートで初の五輪金メダリストになるか」 (東京都 60 代男性) 「世界記録更新と 500、1000m 優勝に期待」 (福岡県 60 代男性)

ブレイク予兆指数			視聴したい競技		
順位	選手名	指数	順位	競技名	pt
1 位	鬼塚 雅 (スノーボード)	39.3	1 位	フィギュアスケート	97.8pt
2 位	戸塚 優斗 (スノーボード)	28. 6	2 位	スキージャンプ	87. 0pt
3 位	渡部 暁斗 (ノルディック複合)	25. 7	3 位	スピードスケート	72. 3pt

▼意識調査



産業能率大学スポーツマネジメント研究所（所長：中川直樹 情報マネジメント学部教授）は、2月9日に開幕する平昌冬季五輪に関し、日本代表全選手の知名度やメダル予想、視聴したい競技などを尋ねる調査を実施しました。調査の設計・分析は、同研究所の小野田哲弥研究員（情報マネジメント学部准教授）が担当しました。

調査は1月31日から2月2日までの3日間、インターネット調査会社を通じて実施し、20代から60代の男女1万人から回答を得ました。サンプルは、最新の人口推計に基づき割付を行っています。（総務省統計局 2017 年 4 月 14 日公表「人口推計（2016 年 10 月 1 日現在）」）

調査の結果、**知名度と注目度**の1位はフィギュアスケートの**羽生結弦**選手となりました。前回ソチ冬季五輪の金メダリストでもあり約9割が認知しています。今大会は昨年（2017 年）痛めた右足首のけがからの復帰戦でもあり、注目理由として「けがを克服して金メダルをとって欲しい」（愛媛県 60 代女性）などの声も多数見られました。さらに、男子フィギュア 66 年ぶりの連覇の期待もかかるなど大きな注目が集まっています。日本代表全 124 選手の中で、最も多くの人が「**金メダル**」を**獲得すると予想**したのは、スピードスケートの**小平奈緒**選手でした。500 メートルでは公式戦 24 連勝中で、今シーズンは 1000 メートルで世界新記録を打ち立てるなど圧倒的な力を見せており、認知者の過半数が金メダル獲得を予想しています。

また、過去の五輪（北京・バンクーバー冬季・ロンドン・ソチ冬季・リオ）で事前・事後調査を重ねてきた当研究所では、そのノウハウを活かして独自指標の「**ブレイク予兆指数**」を開発しました。この指標は、認知者内での金メダル予想率が、知名度に比べて大きい選手であるほど、ポイントが高くなるように設計されています。今回の平昌五輪でブレイクしそうな選手 1 位には、スノーボードの**鬼塚雅**選手が選ばれました。鬼塚選手の全体の認知度は 6.1%でしたが、認知者の約半数（45.4%）が金メダルの獲得を予想しています。

本学スポーツマネジメント研究所では、平昌冬季五輪閉幕後にも、今回の調査対象者に対して「満足度」や「ブレイク度」などを追跡で調査・分析し、発表する予定です。調査を担当した小野田研究員は「調査は全国 1 万人を対象としているため、“目利き”のスポーツ観戦者に絞って算出した『ブレイク予兆指数』にも一定の信頼性がある。また、分析対象として 124 選手を網羅しているため、五輪前後の比較によって、メダルの色とは違った尺度で全選手の『感動度』を測定することも可能だ。独自に開発したこれらの指標が、アスリート評価の新たな軸になれば」と話しています。

▼各項目について

知 名 度	日本代表全選手(124 人／1 月 30 日時点)を選択肢として、「知っている」選手を全て回答してもらった。全回答者数（1 万人）を母数に、「知っている」と答えた人の比率。
金メダル予想	各選手の認知者を母数に、競技の結果として「金メダル」と予想された比率。 （データの信頼性を確保するため、認知率 5%以上の選手が対象。）
注 目 度	「知っている」選手について、特に注目している選手を 10 人まで選択してもらった。 各選手の認知者を母数に「特に注目している」と回答された比率。
ブレイク予兆指数	「認知者内の金メダル予想率」から「認知率」を引いた値。 （データの信頼性を確保するため、認知率 5%以上の選手が対象。）
視聴したい競技	平昌冬季五輪で実施される各競技の視聴意向を 4 択で尋ね、その構成比(%)に以下の係数を掛けて加算した合計値。①「絶対に視聴したい」=2pt、②「できれば視聴したい」=1pt、③「視聴したくなるかもしれない」=0.5pt、④「視聴したいとは思わない」=0pt。

▼調査概要

調査時期：2018年1月31日～2月2日

調査方法：インターネットリサーチ

サンプル：10,000人

属性：男性 5,021人（50.2%）/女性 4,979人（49.8%）

20代 1,556人（15.6%）/30代 1,901人（19.0%）/40代 2,353人（23.5%）/50代 1,908人（19.1%）/60代 2,282人（22.8%）

※サンプル割付は、総務省統計局「人口推計（2016年10月1日現在）」（2017年4月14日公表／調査時最新データ）の比率に基づく。

都道府県	男性 5,021人(50.2%)					女性 4,979人(49.8%)					合計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
北海道	30	37	46	40	50	29	38	48	44	57	419
青森県	6	9	11	10	13	6	9	11	11	14	100
岩手県	7	9	11	10	13	6	8	10	10	13	97
宮城県	16	18	21	18	22	15	18	20	18	22	188
秋田県	4	6	8	8	11	4	6	8	8	12	75
山形県	6	8	9	9	11	5	7	9	9	11	84
福島県	11	14	16	16	20	9	12	15	15	19	147
茨城県	18	22	27	22	28	15	20	25	22	28	227
栃木県	12	16	19	15	19	11	14	17	15	19	157
群馬県	12	14	19	15	18	10	13	18	14	19	152
埼玉県	49	58	76	56	63	46	54	70	53	65	590
千葉県	40	49	63	47	55	37	46	59	45	57	498
東京都	107	128	144	106	98	104	122	138	100	100	1,147
神奈川県	64	76	98	73	72	58	71	92	67	74	745
新潟県	12	16	19	18	23	12	15	19	17	23	174
富山県	6	7	10	8	10	5	7	9	8	11	81
石川県	7	8	11	8	11	6	8	10	8	11	88
福井県	4	5	7	6	7	4	5	7	6	8	59
山梨県	5	6	7	7	8	4	5	7	7	8	64
長野県	11	14	19	16	19	10	14	18	16	20	157
岐阜県	11	14	18	15	18	11	14	18	15	19	153
静岡県	21	27	35	28	34	19	26	33	28	35	286
愛知県	54	63	76	56	59	48	57	71	53	62	599
三重県	11	13	17	14	16	10	12	16	14	17	140
滋賀県	10	11	13	10	12	9	11	13	10	12	111
京都府	18	18	23	18	22	18	19	24	19	24	203
大阪府	58	65	86	64	72	58	67	88	65	78	701
兵庫県	31	38	51	40	48	32	40	53	43	52	428
奈良県	8	9	12	10	12	8	9	12	11	14	105
和歌山県	5	6	8	7	9	5	6	8	8	10	72
鳥取県	3	4	5	4	6	3	4	4	4	6	43
島根県	3	5	5	5	7	3	4	5	5	7	49
岡山県	12	13	17	13	17	12	13	16	14	18	145
広島県	18	21	26	20	25	16	20	25	21	26	218
山口県	8	9	11	10	14	7	9	12	10	15	105
徳島県	4	5	6	5	8	4	5	6	6	8	57
香川県	5	7	9	7	10	5	7	8	7	10	75
愛媛県	7	9	11	10	13	7	9	12	11	14	103
高知県	3	5	6	5	7	3	5	6	5	8	53
福岡県	32	38	44	36	45	33	40	46	38	49	401
佐賀県	4	6	6	6	8	5	6	7	7	8	63
長崎県	7	9	10	10	14	7	9	11	11	14	102
熊本県	10	12	13	13	17	10	13	14	14	18	134
大分県	6	8	9	8	11	6	8	9	9	12	86
宮崎県	5	7	8	8	11	5	8	9	9	12	82
鹿児島県	8	11	12	13	16	9	12	13	13	17	124
沖縄県	9	11	13	11	12	9	12	13	11	12	113

▼データ集

【知名度】

1 位 羽生 結弦選手（フィギュアスケート）

2 位 葛西 紀明選手（スキージャンプ）

3 位 高梨 沙羅選手（スキージャンプ）

知名度トップは、前回ソチ冬季五輪で金メダルを獲得した羽生結弦選手。海外で行われる大会にも多くの日本人ファンがかけつけるなど、人気・知名度ともに抜群。2位は“レジェンド”葛西紀明選手。1992年アルベールビル冬季五輪から8大会連続となり冬季五輪史上単独最多の出場となります。羽生選手、葛西選手の2選手は知名度が8割を超えました。3位には高梨沙羅選手が入りました。

【金メダル予想】

1 位 小平 奈緒選手（スピードスケート）

2 位 羽生 結弦選手（フィギュアスケート）

3 位 渡部 暁斗選手（ノルディック複合）

最も多くの人々が「金メダルを獲得する」と予想したのは、小平奈緒選手。スピードスケート500メートルで24連勝、また1000メートルでも世界最高記録を打ち立てるなど圧倒的な結果を残しており大きな期待が寄せられています。

2位は男子フィギュア66年ぶりの連覇がかかる羽生結弦選手、3位にはW杯で自己最多5勝を記録している渡部暁斗選手が選ばれています。

【知名度：トップ20】

順位	選手名（競技）※敬称略	%
1	羽生 結弦（フィギュアスケート）	87.4
2	葛西 紀明（スキージャンプ）	84.6
3	高梨 沙羅（スキージャンプ）	79.9
4	宇野 昌磨（フィギュアスケート）	77.6
5	宮原 知子（フィギュアスケート）	67.2
6	小平 奈緒（スピードスケート）	59.5
7	高木 美帆（スピードスケート）	53.4
8	平野 歩夢（スノーボード）	53.0
9	田中 刑事（フィギュアスケート）	46.3
10	坂本 花織（フィギュアスケート）	45.4
11	渡部 暁斗（ノルディック複合）	43.6
12	伊藤 有希（スキージャンプ）	40.2
13	伊東 大貴（スキージャンプ）	34.6
14	本橋 麻里（カーリング）	32.8
15	高木 菜那（スピードスケート）	26.4
16	渡部 善斗（ノルディック複合）	19.9
17	平岡 卓（スノーボード）	18.9
18	クリス・リード（フィギュアスケート）	17.9
19	加藤 条治（スピードスケート）	16.4
20	片山 来夢（スノーボード）	16.0

*日本代表全選手(124人)を選択肢として、「知っている」選手を全て回答。全回答者数(1万人)を母数に、「知っている」と答えた人の比率。

【金メダル予想：トップ20】

順位	選手名（競技）※敬称略	%
1	小平 奈緒（スピードスケート）	51.4
2	羽生 結弦（フィギュアスケート）	49.6
3	渡部 暁斗（ノルディック複合）	33.7
4	高梨 沙羅（スキージャンプ）	31.4
5	高木 美帆（スピードスケート）	28.9
6	平野 歩夢（スノーボード）	26.7
7	葛西 紀明（スキージャンプ）	14.5
8	竹内 智香（スノーボード）	12.2
9	鬼塚 雅（スノーボード）	10.6
10	宇野 昌磨（フィギュアスケート）	9.8
11	高木 菜那（スピードスケート）	9.7
12	宮原 知子（フィギュアスケート）	8.8
13	渡部 善斗（ノルディック複合）	8.3
14	片山 来夢（スノーボード）	7.3
15	平岡 卓（スノーボード）	5.5
16	坂本 花織（フィギュアスケート）	5.3
17	戸塚 優斗（スノーボード）	5.1
18	伊藤 有希（スキージャンプ）	4.1
19	加藤 条治（スピードスケート）	2.9
20	湯浅 直樹（アルペンスキー）	2.7

*各選手の認知者を母数に、競技の結果として「金メダル」と予想された比率。（データの信頼性を確保するため、認知率5%以上の選手が対象。）

【注目度】

1 位 羽生 結弦選手（フィギュアスケート）

2 位 高梨 沙羅選手（スキージャンプ）

3 位 小平 奈緒選手（スピードスケート）

国外で開催される冬季五輪で史上最多となる日本代表選手 124 人の中で、最も注目されている選手は羽生結弦選手でした。今回の平昌冬季五輪は、昨年（2017 年）痛めた右足首のけがからの復帰戦でもあるため、注目理由に、けがの状態を心配する声も多くみられました。2 位には、悲願の金メダルに期待がかかる高梨沙羅選手、3 位は金メダル予想でも 1 位になった小平奈緒選手となりました。

【注目度：トップ 10】

順位	選手名（競技）	%	主な理由
1	羽生 結弦 （フィギュアスケート）	73.7	「66 年振りの 2 連覇、金メダルを絶対取って欲しい」（宮城県 60 代女性） 「世界最高得点の記録更新を見たいから」（静岡県 30 代男性） 「けがを克服して金メダルをとって欲しい」（愛媛県 60 代女性）
2	高梨 沙羅 （スキージャンプ）	69.2	「日本女子ジャンプ界をリードする一人。活躍に期待」（長野県 20 代女性） 「金メダルを取った笑顔が見たい」（愛媛県 40 代男性） 「四年間の頑張りを応援したい」（千葉県 50 代女性）
3	小平 奈緒 （スピードスケート）	61.8	「平昌五輪金メダル最有力選手だから」（群馬県 60 代女性） 「日本女子スピードスケートで初の五輪金メダリストになるか」（東京都 60 代男性） 「世界記録更新と 500、1000m 優勝に期待」（福岡県 60 代男性）
4	宇野 昌磨 （フィギュアスケート）	54.8	「複数の 4 回転が決まればメダル獲得出来そうだから」（北海道 50 代女性） 「メダル候補。羽生選手とのダブルの表彰台を期待している」（広島県 30 代女性）
5	葛西 紀明 （スキージャンプ）	54.5	「同年代として尊敬する」（愛媛県 50 代女性） 「45 歳にして世界一流のジャンパーとして活躍。日本の誇りだから」（愛知県 60 代女性）
6	渡部 暁斗 （ノルディック複合）	48.7	「キング・オブ・スキー。今シーズン好調で期待大です」（岡山県 60 代女性） 「金メダルの瞬間をみたいから」（神奈川県 30 代男性）
7	高木 美帆 （スピードスケート）	48.3	「1500m のチャンピオンだから」（愛知県 60 代男性） 「8 年ぶり 2 度目の出場で凄い成長が見られそう」（東京都 30 代男性）
8	宮原 知子 （フィギュアスケート）	44.1	「安定した演技で日本のスケート界を引っ張る存在だから」（東京都 20 代男性） 「けがからの復帰後、どこまで自分の力を出してくれるか」（神奈川県 40 代女性）
9	平野 歩夢 （スノーボード）	42.6	「世界初の技を五輪本番で成功させる姿を見たいから」（鳥取県 20 代男性） 「誰も成功してない技で五輪金メダルを」（山形県 60 代女性）
10	坂本 花織 （フィギュアスケート）	37.6	「17 歳と思えないくらい堂々とした演技がみたい」（兵庫県 50 代女性） 「ダイナミックなジャンプが見ていて気持ち良い」（愛知県 50 代女性）

※「知っている」選手について、特に注目している選手を 10 人まで選択してもらった。

各選手の認知者を母数に「特に注目している」と回答された比率。また注目している理由を自由回答（FA）で尋ねた。

【ブレイク予兆指数】

- 1 位 鬼塚 雅選手（スノーボード）
- 2 位 戸塚 優斗選手（スノーボード）
- 3 位 渡部 暁斗選手（ノルディック複合）

“ブレイク”しそうな選手1位は、五輪初出場、19歳の鬼塚雅選手でした。鬼塚選手は、出場したW杯4戦のうち、3回表彰台にあがっており金メダル候補の一角として注目されています。

2位は神奈川県出身、高校1年生の戸塚優斗選手。昨年（2017年）、W杯初出場で初優勝を飾るなど若手の実力者です。3位には、金メダル予想でも3位に入った渡部暁斗選手が入りました。

【視聴したい競技・種目】

- 1 位 フィギュアスケート
- 2 位 スキージャンプ
- 3 位 スピードスケート

平昌冬季五輪は、スピードスケートの「マススタート」やスノーボードの「ビッグエア」などの6種目が新たに加わり、7競技102種目で開催されます。調査では観戦したい競技（※一部競技は種目まで）について、視聴意向を4択で尋ねポイント換算しました。視聴したい競技1位は、注目選手が多数出場するフィギュアスケートとなりました。

【ブレイク予兆指数：トップ10】

順位	選手名（競技）※敬称略	指数
1	鬼塚 雅（スノーボード）	39.3
2	戸塚 優斗（スノーボード）	28.6
3	渡部 暁斗（ノルディック複合）	25.7
4	吉田 夕梨花（カーリング）	25.5
5	竹内 智香（スノーボード）	24.6
6	小平 奈緒（スピードスケート）	23.7
7	渡部 善斗（ノルディック複合）	21.8
8	片山 来夢（スノーボード）	20.9
9	高木 菜那（スピードスケート）	20.5
10	岩渕 香里（スキージャンプ）	12.3

「認知者内の金メダル予想率」から「認知率」を引いた値。
（データの信頼性を確保するため、認知率5%以上の選手が対象。）

【視聴したい競技（種目）：トップ10】

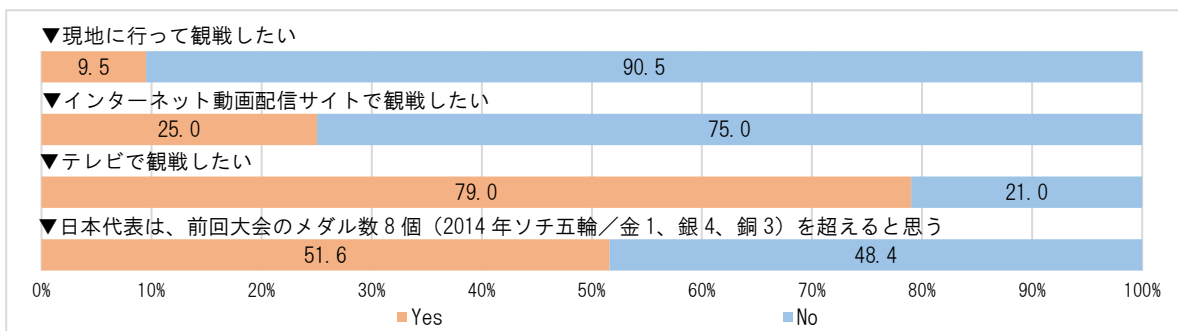
順位	競技（種目）名	pt
1	フィギュアスケート	97.8
2	スキージャンプ	87.0
3	スピードスケート	72.3
4	スノーボード	59.1
5	ノルディック複合	56.6
6	ショートトラックスケート	52.6
7	カーリング	49.2
8	アルペンスキー	48.6
9	フリースタイルスキー	47.4
10	クロスカントリースキー	40.2

※平昌冬季五輪で実施される各競技（種目）の視聴意向を4択で尋ね、その構成比（%）に以下の係数を掛けて加算した合計値。

①「絶対に視聴したい」=2pt ②「できれば視聴したい」=1pt ③「視聴したくなるかもしれない」=0.5pt ④「視聴したいとは思わない」=0pt。

(ご参考：意識調査)

■単純集計



平昌冬季五輪の選手・競技だけでなく、観戦意向やメダル数に関しても尋ねました。単純集計の結果を見ると、「現地に行つて観戦したい」が9.5%、「インターネット動画配信サイトで観戦したい」は25.0%にとどまりました。約8割が「テレビで観戦したい」とする意向を示しています。メダル獲得数の予想では、過半数が「前回大会のメダル数8個(金1、銀4、銅3)を超えると思う」と回答しています。

■クロス集計

		現地に行つて観戦したい		インターネット動画配信サイトで観戦したい		テレビで観戦したい		日本代表は、前回大会のメダル数8個（2014年ソチ冬季五輪／金1、銀4、銅3）を超えると思う	
		YES	NO	YES	NO	YES	NO	YES	NO
全体（％）		9.5	90.5	25.0	75.0	79.0	21.0	51.6	48.4
性別	男性	10.3	89.7	30.1	69.9	76.0	24.0	50.7	49.3
	女性	8.7	91.3	19.9	80.1	82.0	18.0	52.5	47.5
年代	20代	16.6	83.4	26.9	73.1	72.2	27.8	45.6	54.4
	30代	12.3	87.7	23.9	76.1	73.7	26.3	44.2	55.8
	40代	9.2	90.8	22.0	78.0	75.9	24.1	46.3	53.7
	50代	7.5	92.5	25.8	74.2	83.6	16.4	56.2	43.8
	60代	4.3	95.7	27.2	72.8	87.4	12.6	63.5	36.5
性年代	男性 20代	18.9	81.1	34.5	65.5	69.8	30.2	45.6	54.4
	男性 30代	13.5	86.5	30.2	69.8	69.9	30.1	41.0	59.0
	男性 40代	9.2	90.8	27.0	73.0	71.9	28.1	44.8	55.2
	男性 50代	8.0	92.0	29.1	70.9	80.5	19.5	55.0	45.0
	男性 60代	4.5	95.5	31.1	68.9	86.2	13.8	65.4	34.6
	女性 20代	14.1	85.9	18.9	81.1	74.7	25.3	45.5	54.5
	女性 30代	11.0	89.0	17.5	82.5	77.6	22.4	47.5	52.5
	女性 40代	9.2	90.8	16.8	83.2	80.0	20.0	47.8	52.2
	女性 50代	7.1	92.9	22.4	77.6	86.7	13.3	57.4	42.6
	女性 60代	4.2	95.8	23.5	76.5	88.6	11.4	61.6	38.4

* ■はYesの全体値+5ポイント以上、■はNoの全体値+5ポイント以上

* ■はYesの全体値+5ポイント以上、■はNoの全体値+5ポイント以上

クロス集計の結果を見てみると、「現地に行つて観戦したい」とする回答は、若年層ほど高くなっています。「インターネット動画配信サイトで観戦したい」とする回答は、世代差はないものの男性の方が高くなっており、男女間で差が見られます。一方「テレビで観戦したい」とする回答は年代が上がるほど高い数値になるなど、性別・世代間で観戦意向に違いが見られました。

メダル数の予想について全体では「前回大会のメダル数(8個)を超えると思う」が過半数(51.6%)となりましたが、若年層は半数を割り込んでおりシビアな見方をしていることが分かりました。